

# アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物

- 2面 勝俣講演
- 3面 大西講演
- 4、5面 学習交流集会
- 6面 グエン・ゴック講演
- 7面 列島AALA
- 8面 わたしとAALA

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2018年12月1日 No.701

## アフリカ・中国の最新情勢を学び 日本AALAの活動に確信と展望



あいさつする吉田万三代表理事

### 2018 日本 AALA 全国学習交流集会 in 熱海を開催

「2018 日本 AALA 全国学習交流集会 in 熱海」は、10月21日、22日に熱海市で開催され、22都道府県から60人が参加しました。

記念講演では、勝俣誠さん（明治学院大学名誉教授）がセネガルでの調査研究を踏まえたアフリカ諸国の現状を明らかにし、大西広さん（慶応義塾大学教授）が朝鮮半島情勢が急展開するなかでの日中韓の関係を解明し、私たち日本 AALA の運動の重要

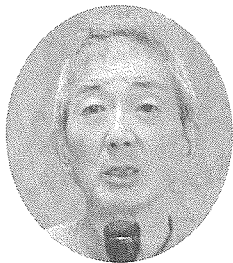
性を強調しました。

北海道、東京、愛知、兵庫の4都道府県 AALA が実践に基づく特別報告をおこない、「国際署名」活動、横田基地オスプレイ配備反対、青年に依拠した活動などについて述べました。

参加者は各県の活動経験・教訓を学び、今後の運動継続を確認しました。2日間に述べ30人が発言し、討論をおこないました。（詳細は2面～5面）

# 南北問題はなくなったのか？ 現代アフリカから見る新アジア・アフリカ展望

勝俣 誠 明治学院大学国際平和研究所研究員



まず、冒頭でウガンダのマケレレ大学の政治学者マウムド・マンガニ教授がアフリカ人

の学生に向けた「世界の中のアフリカは大きく変わり、君たち自身がもう一つの未来を想像力と勇気をもって創る以外にない」というメッセージが紹介されました。

次に西アフリカのセネガルの首都ダカールで活動するNGO「アンテルモンド」の活動を記録したDVDを視聴しました。明治学院大学の勝俣ゼミの学生が作成したものです。朝3時に起床して杵と臼で脱穀して食事を用意する農村の女性たち、冷蔵庫のない家庭のためにヒモノ生産にいそむ漁村の女性たち。社会保障をうけられるのは人口の15%という過酷な日常生活とともに、その自立を支援するNGOの活動が紹介されました。「人と人がつながり、だれもが排除されず権利が守られる。国内でも国際でもルールが話し合いで決められる」と理想社会を語りながら、「世界の不平等は作られたもの。運命を受け入れるのではなく、世界は自分たちのものだとして新しい世界をつくる」と語るNGO代表の言葉が印象的でした。勝俣氏はこの後、アフリカの人々が直面している歴史的な課題と問題の背景を概略次のように説明しました。

1955年のアジア・アフリカ会議は、冷戦下の米ソによる確執から生まれた東西問題にもう一つの対抗軸として南北問題を提起しま

した。これにより、ヨーロッパや日本の植民地支配と闘った独立運動のリーダーにより連帯・協力による「南」という新しいより公正な世界秩序を打ち立てる思想と行動の単位が生まれました。非同盟思想と運動もこの知的・実践的営みから生まれていきます。そして1970年初頭の資源ブームのさなかに「南」は、アラブ世界の産油国のイニシアチブで「新国際経済秩序」という新たな国際関係の展望を提示しました。原料輸出国にとどまっていた「南」と、「南」の富を土台にして工業化を先に実現した富裕国「北」との間に平等なパートナーシップを原則とする新たな国際協力のブループリントが国連総会で打ち出されました。

しかし1980年代の石油を中心とする一次産品価格の国際市場での低迷と、90年代の東西冷戦の終焉は東西南北の座標軸を限りなく液状化させ、市場のグローバル化全開時代が始まります。アフリカ諸国にとってこの20年は対外債務返済のための「構造調整」という名の緊縮財政時代となります。ワシントンに本店を置く国際通貨基金と世界銀行によるアフリカ諸国の経済主権弱体化の時代ともいえます。

2001年の中国の世界貿易機構(WTO)加盟は中国のアフリカ大陸への「大躍進」の時代を告げる象徴的出来事です。BRICSの世界経済での登場も追い風となり、アフリカのパワーとマネーによる社会変動は、いまや旧宗主国の欧州対独立後も依存が続くアフリカと言う伝統的対照軸のみでは見えてこない新たな時代に入ったといえ

ます。「新冷戦」時代の到来ともいえる米中超大国がアフリカやアジアでどのように振る舞って、そこからどのような国際関係が生まれてきているのか、を観察し、考察することも不可欠になっています。

そして何よりも人々のアフリカに目を転じれば、地域によるムラや違いがあるものの、全体としてこの大陸はいまだ膨大な貧困層と格差と想像を絶する暴力状況を抱えています。内戦と難民の負のサイクルが繰り返され、教育、医療保健のごとき公的基本サービスの劣化ないし欠如が日常化します。こうしたなかで、総人口の4割以上は15歳以下という「若きアフリカ」での多くの若者の「北」への移民願望は、IT革命によるその「輝くメガポリス」情報への接続によって加速化しています。南北格差の軸は変化したものの、人間の尊厳を奪う貧困と暴力によるその地理的格差の基本構造は変わっていません。この新興アフリカは、やはり新たな時代を迎えているアジアとどのような向き合い方をするのでしょうか。より格差の少ない、誰もが尊厳をもって生きられる世界のあり方をアジア・アフリカから発信できるのでしょうか。

日本 AALA 講演会

トゥラニ・ロモ駐日  
南ア大使は語る

12/5 13:30 ~ 16:00

全国教育文化会館 (エデュカス東京)  
地下1階会議室

# 朝鮮半島の急展開と日米中関係

大西 広 慶應義塾大学教授



日本 AAL A は日中友好協会や日本ベトナム友好協会、日朝協会などと違って、世界の

支配構造を論じる中で私たちのたたかいを位置づけるという役割を担っている。

トランプ大統領が現在の戦略をとらざるを得なくなったのは、彼自身の再選、自分のためだけにやっていることである。そのためには誰の利益を代表するかになるが、2016年の大統領選挙結果からみると、アメリカ中央部と南部の諸州、ラストベルト（錆びた州）の労働者、白人、高卒以下の人たちの「俺たちを守ってくれ」という利益を代表していると言える。彼らにとっては朝鮮などにアメリカは関与せず、雇用のために中国との貿易戦争をしてくれる方がよい。トランプ外交はこの線でもっともよく理解できる。

一方、中国は工業品輸出国、一次産品輸入国である新興工業国の典型としての後発「帝国主義」と経済学的には理解される。BRICSは新興工業国同盟として先発帝国主義との不均等発展で利益対立している。この下で、過去にはイデオロギーを掲げていた中国も普通の国となって、国益外交で動いている。「一带一路」は中国がリーダーシップをとろうとの戦略から来ている。米中両国とも国益で動いているが、2つの大国は何が違うのか。朝鮮半島に関わっては米日が「軍事力行使も辞さない」としてきたが、中国は「解決はあく

まで外交的手段で」とあくまで平和を求めてきた。

北東アジアの国際関係では朝鮮半島が全体を規定してきた。冷戦前期にはアメリカはその覇権のために朝鮮半島の緊張が不可欠としてきたが、これは「どちらかが統一してしまう」のでも「南北融和」のどちらでもない中間的なもので、トランプの過去の軍事的解決路線よりはましに見えても、その目的が北東アジアの半分を支配する目的によるものだったことを忘れてはならない。2002年秋、小泉首相は日朝会談をおこなったが、アメリカは日本に激怒し、その結果、日朝関係はより悪化した。これを見て朝鮮は対米従属の日本を相手にしてもダメであり、対米交渉しか意味のないことを知った。1985～90年頃には金丸訪朝や盧泰愚の対北対話路線、2000年頃には金大中の太陽政策があったが、結局、プッシュの「悪の枢軸」路線で破綻させられた。

パク・クネ韓国大統領の前半期は2015年9月の「戦勝記念日」到北京を訪問、世界の対中輸出総額12%を韓国が占めるなど中韓の蜜月時代であった。この背景には韓国が中国を通じた朝鮮のコントロールに期待できたということがあったが、朝鮮にとって最悪のこの状況打開のために核とミサイルの開発に進んだ。その結果が、パク・クネ後半期の対米依存、対日依存への外交の転換である。が、これは中国の韓国商品不買運動、屈辱的な対日慰安婦合意で韓国人の怒りを買った。これが韓国の反パク・クネ運動の背景にあったということが重要である。これはパ

ク・クネ派のデモが星条旗を振る「親米派」であったことからわかる。韓国のろうそく運動は親米親日路線からの脱却のたたかひでもあったのである。その後の文政権は南北会談をおこない、米朝会談もおこなわれた。北東アジアは平和の方向に向かっている。明らかに日本は孤立しており、安倍外交の失敗は明確である。安倍政権を下野させねばならない。そして不要となった沖縄の基地を撤去させ、自衛隊の縮小が求められる。米朝会談に先だち、昨年11月の米中会談で貿易を真の狙いとするトランプから習近平は平和の合意を28兆円で買ったというのが重要である。1月以降の平和への流れは実はここからはじまっている。

韓国では光州事件を扱った映画「タクシー運転手」、盧武鉉（ノムヒョン）を扱った「弁護人」という映画がメジャーな映画として人々に見られており、韓国国民は独裁政権を打倒した経験を自分自身の体験として持っている。

中国の国民の中にある大国主義には注意しておく必要がある。今、中国では非常に好戦的な映画が続々と大ヒットをしているからである。その典型は今年の「戦狼」（“wolf of war”）である。中国政府は今のところ、こういう風潮を自重しているが、国民世論が先に進むと政府政策にも反映され兼ねない。

最後に注意を喚起したいことは、アメリカが北東アジアから後退することで日本国内の反米右派が台頭することである。百田直樹、石原慎太郎などがすでにその方向で動いている。下手をすると「反米」のスローガンを彼らに取られかねない。「反米」が我々のスローガンであることを世間にもっとアピールしておく必要がある。



# 「国際署名」、 5000人のAALAをめざし 諸活動の前進を



提案する野本事務局長

## 1. 動き出した北東アジアの平和の流れ、国際署名活動の推進

(1) 4月27日の南北首脳会談以来朝鮮半島の非核化、平和体制の構築という動きが進むなか、日本AALAは今後も会員だけでなく広く市民の参加を得て、韓国訪問ツアーの企画、学習会、講演会を他団体と協力して積極的に計画します。

(2) 「国際署名」は時宜に合ったものとして進んでいます。都道府県AALAは第4次国際署名を11月15日(木)まで進め、日本AALA事務所に集中します。

- ①シンガポールツアー(11/25～11/28・泊4日)  
国際署名の提出を予定
- ②署名集約を労組、民主団体、各種の集会でお願いするなど協力を得て急速に進めます

## 2. 第54回定期大会に向け、5000人以上の会員の拡大と組織強化

(1) 人口1万人に1人の会をつくるという壮大な目標を考えます  
(2) 次期大会(2019年9月)までに5000人を、各県が1.3倍化を目標とします。

- ①【第1期】10/22～12/31【第2期】1/1～4/30  
【第3期】5/1～9月定期大会
- ②各県が複数の人員からなる事務局体制を確立し、年間重点行事を立案し、会員拡大と結合してとりくむ
- ③魅力ある機関紙を発行し、加入を促す有効な資料としての改善を図る

## 3. 安倍9条改憲阻止など諸課題での活動の前進

(1) 9条改憲阻止、「戦争法」「共謀罪法」廃止のたたかい、辺野古米軍新基地建設阻止のたたかい、沖縄をはじめ、横田、木更津など全国でのオスプレイ配備・訓練反対、石垣や与那国など八重山地域での自衛隊増強に反対します。安倍首相は9条改憲に執念を燃やしており、臨時国会での発議をさせないために共同して署名活動、諸行動にとりくみます。

(2) 核兵器禁止条約の発効をめざしたとりくみ  
第72回国連総会で採択されてから1年3カ月がたち、69カ国が調印し、批准は19カ国に前進。非同盟諸国の政府を励まし、推進を求める「日本AALAの書簡」を非同盟諸国の政府(73の駐

## 集会での質問・発言(敬称略)

松井 幸博(東京)	アフリカの米軍基地は?
松浦 晴芳(富山)	南北問題はなくなったのか?
澤田 有(大阪)	勝俣講演に感謝
佐々木勝男(神奈川)	アフリカ連合は今?
野本 久夫(本部)	三役会議の提案
片岡 満(北海道)	北海道の取組みと会員拡大推進
松井 幸博(東京)	国際署名、学習会、横田基地撤去で会員拡大
福田 秀俊(愛知)	学習・講演会・望年会・会員拡大で成果
井村 弘子(兵庫)	若者に依拠した活動で会員増やし三桁組織を達成
山本富士夫(福井)	北朝鮮は孤立しているのか?
松浦 晴芳(富山)	中国の「一帯一路」、米中貿易戦争の行方は?
算 久江(愛知)	来年の米朝トップ会談はどうなるのか?
岡阿弥靖正(千葉)	アーミテージ報告、日米軍の一体化は?
金森 洋司(福井)	韓国ツアー、国際署名、会員拡大のベース
松浦 晴芳(富山)	AALA 出番のアピール、北信越ブロックの成功を
佐々木勝男(神奈川)	核廃絶、軍縮の署名活動を進めたい
松井 幸博(東京)	横田基地撤去座り込み、オスプレイ配備反対
田中 靖宏(本部)	ベネズエラなど中南米情勢の見方、 ニュースレター
山本 翠(愛媛)	沖縄に7年住んで基地建設反対のたたかいに参加
浜辺友三郎(大阪)	2つの講演に学んだ、機関紙カラーで発行 AALA Café
上村 得世(大阪)	60年史の学習を踏まえて会員拡大で成果
近藤 輝男(茨城)	60年史の普及、学習会、会員拡大で奮闘
澤田 有(大阪)	マスメディアの4つのタブーで歪んだ報道を批判
岡阿弥靖正(千葉)	国際署名で3000筆超え、中国脅威論批判
浅部 禎一(奈良)	国際署名の推進にラストスパート
砂長 三郎(群馬)	戦後、米軍の妙義山での訓練阻止、軍事訓練反対
利元 克巳(広島)	戦争展、平和委員会、年金者組合などでも活動
久保田三徳(埼玉)	連帯のつどいに170人参加、 500人会員を回復したい
椋木 昭夫(岐阜)	大西広講演を2回実施、学習を中心に活動
高村 裕(長野)	数年前大西講演を実施、 朝鮮半島情勢で学習会を企画中

日大使館)に送付しました。「ヒバクシャ国際署名」を他団体と共同して進めます。

# 平昌精神を 東アジアに

## ASEAN 人民フォーラム開催



分科会のパネリストたちと田中代表理事(左から3人目)

東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟国の非政府組織(NGO)や市民団体が一堂に集まるASEAN市民社会組織会議/人民フォーラム(ACSC/APF)が11月2日から4日までシンガポールで開かれ、日本AALAから田中靖宏代表理事がオブザーバー参加し、集まった300人余の代表と交流しました。

会議はASEAN憲章に盛り込まれた「人民志向」の方針に基づいて2008年から秋のASEAN首脳会議を前に議長国の首都で毎年開かれているものです。市民組織としての活動方針や要望をまとめ、政府代表との対話を通じて首脳会議に提出します。昨年マニラでの会議から日本AALAがゲストとして招かれるようになりました。

今年は平昌オリンピックから始まった朝鮮半島の平和の動きがASEANの活動に大きな刺激を与えている様子が分かりました。開会総会のメーンスピーカーに韓国外務省の外交顧問が招かれて「朝鮮半島の平和構築と東南アジアへの意味」と題して講演。朝鮮をめぐる平和の動きとASEANが進めてきた対話と協力の政治とが共振して、東アジア全体に新しい平和の展望が生まれていると強調しました。

会議の共通テーマは「あらゆる形態の差別に反対する連帯の強化」で、新自由主義による格差や農業・環境破壊の一方で、対抗した新しい経済モデルの試みが人民レベルですすんでいることが報告されました。その一つがデジタル革命を利用して世界市場と結びつく農村の地場産業で、これらを結ぶネットワークを広げ、生産、消費だけでなく教育を含めた「連帯の経済」を対置して、都市のエリートが独占している経済の枠を打破していく展望が語られました。

これまでと同様「公正で持続可能な発展」「移民問題」「平和と安全保障」「人権と裁

判の権利」「生存と尊厳」「差別とのたたかい」の6つの分科会に分かれて論議が行われました。このうち田中代表理事が参加した「平和と安全保障」の分科会では、南シナ海での中国の覇権主義的な行動や「一帯一路」の経済進出の在り方に強い警戒の声がだされていました。また深刻な問題となっているロヒンギャの人たちをはじめミャンマーから脱出して難民となっている少数民族の生存と権利を守る運動にどう取り組むかが話しあわれました。

田中代表理事は「北東アジアの新動向と東アジア平和共同体の展望」と題して報告を行いました。朝鮮半島の平和の動きの意味を「戦争から対話へ」「対立から協力へ」「依存から自立へ」「核から非核へ」の変化と分析。非核化と平和体制の構築が前進すれば、北東アジアの非核地帯化・不戦体制化の展望が可能になると述べました。沖縄県知事選での玉城知事勝利とともに、基地建設を強行し新安法制や米軍との一体化、憲法改悪に走る安倍政権との闘いも報告しました。フィリピンからの参加者からは「沖縄の選挙はおめでとう。私たちも励まされた」とエールが送られました。

韓国代表が、平昌オリンピックに続き、東京、北京と続くオリンピックに合わせて、世界の平和運動の連帯をはかる「世界平和フォーラム」の設置を提案。平昌オリンピック1周年、1999年のオランダ、ハーグでの世界平和会議20周年を記念して「平昌世界平和フォーラム2019」を開こうと提案しました。フォーラムは韓国の地方公共団体などの後援をえて、来年2月8日から10日まで平昌で開かれることになっています。

# ベトナムのたたかい支えた 名もなき民衆と女性の貢献こそ勝利の鍵

ベトナムの2つの解放戦争—抗仏戦争と抗米戦争—を中部の戦場で解放軍とともにたたかった国民作家グエン・ゴックさん（86歳）が11月初旬に来日し、4都市で講演しました。11月3日、東京労働会館（ラパスホール）での講演の要旨は以下のとおりです。通訳は鈴木勝比古さん（ジャーナリスト・日本 AALA 常任理事）です。（文責：教宣部）



今回の講演会に参加でき感謝します。今日、多くの方のご参加はベトナム人民支援の強さを反映していると思います。私は、「なぜ、小国ベトナムが強大なアメリカに勝てたのか」と外国の方からだけでなくベトナム人からも聞かれます。しかし、この質問に完全に答えられていないのです。この質問への答えを求めて研究しなければなりません。答えが、いまと今後のベトナムの建設にとって役立つからです。

2つの戦争—抗仏と抗米のたたかい—は余儀なくされた、強いられた戦争でした。フランスの100年の支配に抗してフランスを追い出しました。その後アメリカがベトナムに侵略してきたのです。小国ですが、私たちは平和を愛する民族なのです。私たちは、ベトナムが2000年にわたって北の中国の侵略に晒された歴史があります。ベトナム民族は外国の侵略に対して断固としてたたかう決意を持った民族です。

正しい指導者の下でたたかい勝利できました。しかし、ベトナムが孤立してたたかっていたら勝利

できなかったのです。正義のたたかいに世界の人民、日本の人民の国際的支援なしには勝てませんでした。兵士としてたたかった私は、粗末な武器のベトナムが勝利したかを常々考えています。ベトナムの軍隊だけでは無理です。兵士だけでなく、すべての人民、圧倒的多数の無名の人びとの力が合わさったからです。私は南部の戦場に13年間いましたが、たえず無数の民衆が私たち兵士を支えてくれたのです。

抗米戦争のなかで人的、物的な支援が続けられました。1959年から南部支援のルートを開拓しはじめました。それがホーチミンルートで、北のハノイから南のカマウへの陸上のルートです。私は1962年にホーチミンルートを通して南部に入りました。歩いて3か月半かかりました。南部への武器の輸送には3か月から6か月かかったのです。これは奇跡的な仕事でした。B52の爆撃にもかかわらず山脈沿いのルートは維持され活用されました。

1959年末に指導部は陸のルートとともに海のルートを考えまし

た。それは危険のともなう冒険的なものでした。たくさんの障害があり、アメリカ第7艦隊は警戒網を張っており、サイゴン海軍は沿岸に沿った海域を警戒していました。この計画の秘密は絶対守られるべきもので、3人の指導者（ホーチミン主席、ボーゲンザップ将軍、人民海軍の司令官）が知っているだけです。それに直接携わっている人だけでした。船の乗組員たちも自分の事だけを知りだけです。（続けて、グエン・ゴックさんは、困難だった“海のホーチミンルート”の開拓を述べ、戦場でたたかった無数の人びとのなかで4人について語りました。1人は元兵士のナムドンさん、1人は船を用意した女性のム・リュウさん、そして10年間も離ればなれでたたかったホー・ドクタンさん夫妻です。ゴック著『海のホーチミンルート』に詳述されています）

さて、私たち作家の任務は、こうした無名の人たちを探し出して書くことです。英雄のことを書くのは意味があることですが、勝利しえたのは無名の人たちの活動があったからこそであり、それを書くのが作家の仕事です。たたかいを支えた無数の女性たちの貢献こそ語られるべきです。

私が今日紹介したのはほんのわずかの人たちのことです。平和を実現した私たちが今日どう生きたらよいか。一つは犠牲になった無数の人たちに恥じない生き方をすべきと考えます。銃を持ってたたかう戦士を支えた無数の女性たちの貢献こそ語られるべきです。

今日紹介したのは、ベトナム戦争の断片的な事実にすぎないと思いますが、私が知りえた人たちの話でした。ありがとうございました。



## 北海道

### 月例の学習会 街頭宣伝を大事にして



北海道 AALA は、毎月定例化している行事が二つあります。

一つは、「AALA 教室」と銘打った月例学習会です。世界を知る目的で、第4土曜日、午後6時からおこなっています。今年に入って、「ベネズエラの現状を知る」「ベトナム枯葉剤の被害について」「朝鮮半島の平和の激動について」「メキシコでの左派の勝利をどう見るか」「沖縄知事選を考える」などのテーマで学びました。10月の学習会は、11月に「駐日ベネズエラ大使講演会」(11/10)を控えていることから、それを「成功させるつどい」としました。

学習会には、毎回数人から15人くらいが参加します。講師の約1時間の話が終わったあと、一品持ち寄りの飲み物と料理を楽しみながら、侃々諤々と議論します。この中身は、機関誌で会員に知らせます。また理事長や事務局長が他団体に出向いて行う講師活動にも生かされています。いわば、AALA 組織の「実力を高める」取り組みといえるかも知れません。

もう一つは、毎月11日の札幌駅前街頭宣伝です(退勤時30分間)。

あの東日本大震災・原発事故のあとから続けており、今月で79回目。ハンドマイクと手作りのチラシで宣伝します。宣伝の中身は、原発問題のほか、世界の情勢や沖縄、憲法などですが、とおり一遍ではなくできるだけ AALA の特徴を出すようにしています。「がんばっているね」「3000万署名するよ」など声をかけてくれる人もいて、励まされます。「打って出る活動」はいいものです。

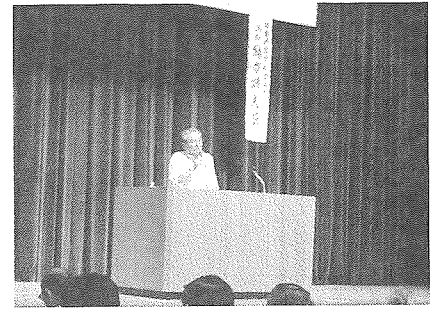
これら二つの活動は、地味ですが、継続するのはなかなか大変なものです。しかし、「世界を知って日本を変えよう」という AALA の活動のモチベーションを高めていく上では大変大事だと感じており、続けていきたいと思っています。(理事長 伊藤 恵夫)

## 宮城

### 朝鮮半島の南北双方の関係者を招待し講演会を実施

朝鮮情勢で日本共産党は今年4月6日に声明「非核化と平和体制構築を一体的、段階的に…関係6か国への要請」を発表し、6か国に働きかけました。「北東アジアの平和構築のための提案」もおこなっています。「今日の緊迫した朝鮮半島を巡る情勢をどのように見るか、我が国にはなにが求められているのか」について緒方靖夫日本共産党国際委員会責任者に講演をお願いしました。来賓には、駐仙台大韓民国領事館と東北朝鮮初中高級学校の南北朝鮮双方の関係者のご臨席をいただきました。

緒方さんは、朝鮮半島をめぐる情勢が今年の緊張から非核化・南北関係改善の急展開を「政治・外交は可能性の芸術」と表現しました。米・南・北の水面下で準備が進められ、米がポンペオ國務長官(前 CIA 長官)、韓国が除黨(ソ・フン)情報院院長、北朝鮮が金英哲労働党副委員長・統一戦線部長(元人民軍偵察総局長)のチーム責任者たちを紹介し、今後は、南北の正常化、朝鮮戦争の終結、非



核化などについて、覚書・宣言よりもさらに踏み込んだ方向へ進むと思われる」と述べました。

韓国に文在寅大統領が生まれ、米朝の触媒の役割を果たし、トランプ米大統領が、北朝鮮の体制を保証し対話する意思表示し、北朝鮮の悲願だった米朝の直接対話の道が開けました。これを受け今年4月20日の朝鮮労働党の会議で、2013年以来の経済建設と核戦力建設を同時に進める「並進路線」から「経済建設」へ、民生の向上に力を入れる方向に、国政の重心を変えました。

核兵器問題では、体制の安全保障と米朝の直接対話の確認されるなかで、北朝鮮は自ら核兵器を廃絶する道に踏み切りました。これは中国の核保有の論理とは異なり、今日の歴史的な好機への自覚によるものです。北朝鮮の経済では民生優先の当り前の国民経済にしようとしていること。緒方さんは「日朝関係が見えてこないのは、北朝鮮政策や北東アジアの平和ビジョンがない安倍首相の姿勢にある」と話しました。さらに緒方さんは「日朝ピョンヤン宣言は、小泉内閣の最大の業績。アメリカは反対していたが容認した。植民地支配の反省・謝罪問題、国交正常化、等々が決まっていた。実際にはこれで進まざるを得ないこと。日本共産党は、対話による解決を掲げ、これは ASEAN・EU・近隣諸国とも共通している」として、NGO、市民社会が声を上げていく運動も大事だと、日本 AALA の国際署名の意義を強調しました。講演を県内版で紹介し、新たな会員や機関紙読者が増えました。(事務局長 小林 立雄)



# 年末年始の贈答に **今年も会員のみなさまにお願いします** **オスパールコーヒーをご利用ください**

今年もあと1カ月となりました。香りと味で好評のオスパールコーヒーをご家庭や職場でどうぞ。年末年始の贈り物に最適です。

マラゴジペ、オスパールブレンドは好評をいただいています。

**オスパールコーヒーのギフトセットが全15種類からえらべます**

基本3品：マラゴジペ/キリマンジャロ/ブレンド (箱代250円)

基本6品：3品+マンデリン/ブラジル/コロンビア (箱代250円)

3品セット：3,370円/6品セット：6,290円



(株) オスパール FAX：049-254-8158 電話：049-254-6241

日本 AALA ホームページからも申込みます。

日本AALA

検索

わたしと

108



AALA

千葉県AALA事務局長  
上田敦子

## 世界を知るおもしろさに 魅かれて

「国際連帯」という言葉から辿っていくと、学生時代のチリ人民連帯支援だろうか。大きなスクリーンに映し出されたピノチェト独裁政権の蛮行に、驚きと悲しみと怒りが押し寄せてきたのを思い出します。AALA と関係の深かった「チリ連」の大島博光氏の詩を読んだことも。そのご子息が千葉県 AALA の会員であることに、なにか不思議な縁を感じます。

その後、教師になって間もない頃知ったのが南アフリカ共和国政府のアパルトヘイトに反対する運動。当時組合の青年部でいっしょに活動し、歴教協の会員だった友人が、南アの現状を話してくれ、ソウェト蜂起を題材にした映画を見ました。南ア製品の不買運動や「アマンドラ」の公演成功のことも熱心に話してくれました。それが日本 AALA の運動だったのだと、入会後に知りました。遠く離れた国で起きていることと日本が無関係ではないこと、自分がどういう世界に生きているのかを知ることの大切さを思いました。「世界を知って日本を変える」につながる第一歩でした。1994年にネルソン・マンデラ南ア共和国大統領が誕生し、あの過酷な社会が民衆の力や世界中の支援で変えられるのだと、大きな感動と希望を

もらったのをはっきり覚えています。

いつ頃日本 AALA の機関紙読者になったのか…、ずっと本部から機関紙を送ってもらっていました。AALA 連帯委員会が、2002年に千葉県にもできることを知り本当にうれしくなって、呼びかけに応え、設立当初からの会員です。

在職中はなかなか講演会に参加できませんでしたが、早期退職してしばらくしてなにかできることがあればと、機関紙発送をお手伝いするようになりました。その後、千葉版ニュースの原稿を書くようになり、現在の千葉版機関紙編集へとつながっています。

千葉県 AALA の運営に関わって10年、世界を知るおもしろさとともに、学び行動する仲間がいるから続けてこられたのだと思います。感謝。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 第33 宮庭ビル 4階

電話：03 (5363) 3470 HomePage <http://www.japan-aala.org/>

FAX：03 (3357) 6255 E-mail：info@japan-aala.org

振替 00110-6-72434 毎月1回1日発行1部150円 (送料62円)